

第2号議案 2018年度事業計画および収支予算案

I. 2018（平成30）年度事業計画

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

日本土壤肥料学雑誌（第89巻第2号～第6号および第90巻第1号の計6冊、A4判）、Soil Science and Plant Nutrition（Vol.64, No.2～No.6, Vol.65, No.1の計6冊、A4判）および2018年度神奈川大会に際して日本土壤肥料学会講演要旨集（第64集、A4判）を刊行する。

(2) その他の刊行物

日本土壤肥料学会の編集により、Springer社からThe Soil of Japanを刊行する。

2. 講演会および研究会等の開催、支援

(1) 「土と肥料」の講演会

2018年5月12日（土）、総会終了後に、東京大学弥生講堂において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「食と農の将来を支える土と肥料の課題と展望～変動の時代における地力と資源循環の視点から～」とし、講演者と演題は金田吉弘氏「近年の大型機械化と多様な水稻栽培における水田土壌の課題と対応」および浅野智孝氏「地域資源を活用した混合堆肥複合肥料の開発経過と特性」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

(2) 2018年度年次大会

2018年8月29日（水）～31日（金）、日本大学生物資源科学部（神奈川県藤沢市）において年次大会を開催する。同期間中、一般講演、ポスターセッション、シンポジウムは29日（水）から31日（金）、学会賞等授賞式、受賞記念講演、懇親会は30日（木）に行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定することとしている。

学会賞等授賞式では、第63回日本土壤肥料学会賞3名、第23回同技術賞2名、第36回同奨励賞2名、第7回同技術奨励賞3名に各賞を授与するとともに、受賞者の記念講演を行う。また、論文賞2件およびSSPN Award 1件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。

第63回 日本土壤肥料学会賞受賞者

- ・石黒宗秀：土壌中における水・溶質移動と界面電気現象に関する研究
- ・信濃卓郎：作物生産向上のための根圏環境制御に関する植物栄養学的研究
- ・白戸康人：土壌炭素動態モデルを活用した農地土壌への炭素貯留の評価

第23回 日本土壤肥料学会技術賞

- ・伊藤豊彰：有機性資源の新しい活用法等を基盤とする環境保全的肥培管理技術に関する研究
- ・清水 武：作物の養分ストレスに関する研究

第36回 日本土壤肥料学会奨励賞受賞者

- ・大森良弘：フィールドにおけるイネの生育と元素蓄積に関する研究
- ・清水真理子：草地における炭素・窒素循環計測に基づく温室効果ガス排出に対する施肥管理の影響評価

第7回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・東 英男：安全・高品質米の安定生産に向けた窒素肥沃度管理とカドミウムリスク低減技術の開発
- ・鎌田 淳：集約的露地野菜及び米・麦二毛作地帯における施肥改善並びに農作物の安全性確保に関する研究
- ・松本武彦：大規模草地における乳牛ふん尿処理物の肥効評価に基づく環境保全的施肥法に関する研究

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・八木哲生、松本武彦、大友 量、小林創平、三枝俊哉、岡 紀邦：根釰地域の飼料用トウモロコシに対するアーバスキュラー菌根菌の効果を考慮したリン酸施肥基準
- ・松本成夫、織田健次郎、三輪睿太郎：わが国の食飼料供給に伴う1992年から2007年までの窒素フローの変遷

SSPN Award 受賞者

- ・Junta Yanai, Hiroshi Taniguchi and Atsushi Nakao : Evaluation of available silicon content and its determining factors of agricultural soils in Japan

(3) 支部大会等

- ・北海道支部：第20回日本土壌肥料学会北海道支部野外巡検(時期・場所未定)および2018年度秋季支部大会・支部総会(11月29日、旭川市民文化会館)を主催する。また、第1回支部評議員会(6月上旬 北海道大学)、第2回支部評議員会(11月29日、秋季支部大会の昼休み時間)を開催する。
- ・東北支部：東北支部大会、支部役員会および支部総会を開催する(6~7月、青森県)。
- ・関東支部：関東支部新潟大会、支部幹事会および支部総会を開催する(12/1 朱鷺メッセ 新潟市)。
- ・中部支部：第79回支部総会、第98回支部例会を開催する(11月 静岡県 日程・場所調整中)。第162回支部評議員会(5月 愛知県 日程・場所調整中)、第163回支部評議員会(11月 静岡県 日程・場所調整中)を開催する。
- ・関西支部：関西支部講演会(12/6)および支部役員会(12/7)を開催する(島根県 日程は暫定案、会場は未定)。
- ・九州支部：九州支部例会、支部賞選考委員会、支部常議員会、支部総会を開催する(9/12~13 東海大学熊本キャンパス)。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第64回日本土壌肥料学会賞、第24回同技術賞、第37回同奨励賞、第8回同技術奨励賞、第8回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Award など顕著な業績を挙げた者を表彰する。

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・日本農芸化学会 2018 年度大会（名城大学天白キャンパス）において、日本農芸化学会との共催シンポジウム「生物による無機元素の認識と反応の新展開」を開催する（3/16）。
- ・JST 俯瞰ワークショップ「フューチャーグリーン～持続可能な農林地利活用を目指して～(3/19)」に、講演者を派遣する。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会（EGU、オーストリア・ウィーン）に代表者を派遣する（4/8～13）。
- ・日本地球惑星連合 2018 年連合大会セッション（5/20～24）を共催する。
- ・IUSS Award Ceremony（ケニア・ナイロビ：未確定）に代表者を派遣する（6月）。
- ・ICSU: International Council for Science 総会（フランス・パリ）に代表者を派遣する（7/3～5）。
- ・第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会（7/4～6）を協賛する。
- ・施設園芸・植物工場展 2018（GPEC 7/11～13）を協賛する。
- ・WCSS（ブラジル・リオ）に代表者および役員を派遣する（8/12～17）。
- ・第 17 回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦 2018 10/15～19）を後援する。
- ・第 2 回東アジアにおける窒素循環とその環境影響に関する国際会議（11/19～22）を共催する。
- ・米国土壌学会に代表者を派遣する（2019.1/6～9）。

5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌の 10 年」に関連した事業を企画する。
- ・土壌教育委員会：①神奈川大会において高校生ポスター発表会を実施する（8/30）。②自然観察の森に土壌断面の説明等が書かれた野外観察板を設置する（場所未定）。③教員研修およびその他の普及事業を行う（時期・場所 未定）。
- ・財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、収支バランスの改善を図る。
- ・広報委員会：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②フェイスブック、メールマガジン等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロダクツ 2018 に出展する（2018.12）。

6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・外部機関からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費の一部を支援する。
- ・各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。